

CHIT CHAT RADIO 子育てCHAT ROOM

2023年9月19日 15時12分～15時39分



CDR 子どもの死亡検証と再発予防の取り組み

—鈴木裕美先生、こんにちは。よろしくお願ひします。

はい、よろしくお願ひします。

—今日のテーマは名前なんですが、先生の鈴木「裕美」の由来はご両親から何て聞かれていますか？

本当は「礼子」にしようと思ってたら、その前日に生まれた同室のお子さんが礼子さんになったので、急遽、裕美になったらしいです。その話を繰り返し聞かされたせいか、「裕美」の由来はなんかよく覚えてないですね（笑）。

—あの、すごいです。かぶった感じがして嫌だったっていう？

そうみたいです。二度と会わない人だから気にしなくていいのにな。

—お父さんが太田裕美さんのファンだったかもしれないですね。

—そうですね。次にスタンバイしてた名前なのかもしれないけれどもね。

—このコーナーでは鈴木先生に子育てに関するお悩み、役立つ情報を伺ってありますが、今回は「子どもの死亡事故を防ぐために」ということで色々伺って参りたいなと思います。

はい、いろんな理由で子どもが亡くなりますが、その原因は年齢によって様々です。乳児や二歳くらいの幼児では先天性疾患といって、生まれ持った病気が原因のことが多いです。不慮の事故でしたら、窒息や突然死症候群ですよ。一歳過ぎて歩き始めて活動的になってくると転倒転落や溺水が多くなりますね。

—お風呂場などですよ。

そうですね。子どもの不慮の事故で多いのは窒息、転落、溺死の三つですね。これらのごときは予防できる可能性はありますよね。

—今聞くだけでも子どもが大きくなるまでに、いろんなトラブルを回避して大きくなってるんだなと思いますね。

そうですね。昔は感染症で亡くなるものが多かったですが、今は抗生剤やワクチンなど、医療の発達のおかげで、感染症で亡くなる子どもは激減しています。昔は生まれた子どもの半分は亡くなる時代もありましたから、今は死亡率がだいぶ改善しています。今後はできる限り事故死を予防していきたいですね。

―**予防に関して様々な取り組みがあると聞きましたが、実際にはどんなものがありますか。**

はい、「チャイルド・デス・レビュー（CDR）」という「予防のための子どもの死亡検証」があります。アメリカでは四十年ほど前に始まり、日本では数年前からで、香川では四国子どもとおとなの医療センターの木下あゆみ医師が中心になって実施しています。この取り組みは子どもの死亡事例を幅広く検証して、再発防止につなげるというものです。私が参加したCDRの第一回は二〇二一年十月でした。この取り組みの特徴は、多方面の専門家が検証すること、検証では誰も責めないということです。親の不注意のせいだと個人の責任にするのではなく、社会で何かできることがあるのではないかと前向きに考えるためのものなんです。

―なるほど。検証するにあたって個人の責任追及をするんじゃないで次に生かして、悲劇が二度と起きないように対策していくと。

そうですね。今までも交通事故は警察がやってたわけですね。検証した結果、シートベルトやチャイルドシートの義務化につながったんですね。CDRでは子どもの死の全てを含むので、交通事故や不慮の事故、虐待死や病死も含めて検証します。

―**多方面の専門家とおっしゃいましたが、警察以外にはどんな方がいらつっしゃいますか？**

医師や看護師、助産師などの医療関係者ですね。あと死亡時の解剖をする先生や当事者家族と関わっていたソーシャルワーカーや教育関係者、行政など、死亡した子どもを取り巻く様々な関係者が集まって、知っている情報を共有して、パズルをはめるように検証するんです。

亡くなるのは大病院なので、医師がCDRのフォーマットに必要な事項を書くわけですが、パズルのピースは全部はまっていらないですね。医療側からだけでは全貌が見えません。事故なら警察が現場検証するので現場の重要な情報を持っていますし、ソーシャルワーカーや学校は家族の重要な情報も持っている。様々な事実が集まると全体が見えてきます。

そしたら、また同じようなことが起きそうになった時に、何をしたら予防できるのかということ個人だけでなく、システムや社会の視点からどう変わるといいか、具体的なアイデアを出すことができます。

―**要因になったものを一つずつ改善していくことで子どもの命を守るんですね。**

—この「チャイルド・デス・レビュー」は、私は初めて聞きましたが、香川は二〇二一年からで？

はい、その二年前くらいから準備はしていました。国がモデル事業をする都道府県を募集して七つが手を挙げて、そのうちの一つが香川県だったんです。

—そうなんですね。

モデル事業として記入フォーマットを作成し、死亡例を集め、CDRメンバーと検証して、対策をみんなで考えるという一連の流れを繰り返してやってみました。

—海外では長い間あったけど、日本は日本独自の環境がある中でCDRを試してみて、有効なやり方は何かを検証していくんですね。そして、そのモデル事業の中に香川県が入っていると。

はい、私もいろいろなCDRメンバーがいる中で勉強させていただいて、大変よい機会になったと思っています。

—ニュースで今月痛ましい事件がありました。おばあちゃんが二歳の孫を車内に置き去りにして、結果的に熱中症でその子どもが亡くなってしまいました。

—これは本当に伝えるのも辛かったですし、私自身ちょうどこの祖母と近い年なんです。これって本当に日常ありうることで、誰が悪いというより、矢印は正直自分に向いたんですよね。

はい、本当にそうですよね。

—どうしても今の日本の風潮としては誰が悪いの？責任はどこにあるの？と追及しがちですよね。でも、先生がおっしゃってるCDRという考え方が浸透するともっと他人に優しく、そして次に生かせることになるんだと思うんですけど。

—いや、本当そうですよね。

本当にそうです。人間はミスをする、うっかりする生き物だから、そこを責めても解決できないですよ。だからミス防止にシステムや物、機械に頼ってミスを極力予防するために考えることが大事なんだと思います。

—いろんなセーフティーネットですね。

そうですね、セーフティネットですね。この件をCDRで取り扱うとしたら、医療関係者が子どもの病状や死因を話したり、このご家族をサポートしている教育、福祉関係の方が情報提供されたりして検証するんですが、結局こういうことにならないためには何をしたらいいかという対策の話になったときに、何を提案できると思います？

—おそらくお孫さんは後ろの席のチャイルドシートに座ってたと思うんですね。普段は送り迎えはやってらっしゃらないとかで、運転した途端にお孫さんを乗せたということがポンと抜けてしまって、荷物も助手席に置いてたと思うんです。振り返れば分かったんですね。

—そうですね、でも、気を付けていればよかったとか、後ろを振り向く癖をつけた方がよかったとかいう対策だとうまくいかないんですね。

—あ、たしかに。

—例えば車の中に人感センサーがあって、鍵をして外に出た瞬間に車内に人がいるとピーピー鳴ったら、思い出せたと思うんです。今の車は鍵を中に入れてドアを閉めたり、エンジンつけたまま鍵を持って車から離れるとアラーム音鳴りますよね。

—最近のありますよね。鍵を中に閉じ込めてますよって教えてくれる。

—それが人間でもアラーム鳴らしてくれる機能を車に付けたらどうか、といったような話をするんですよ。もちろん、車外にできる場合は後部座席を確認しようっていうキャンペーンもいいかと思いますけど。

—なるほどね。だからハードとソフトでできることを提案して、完全に改善できないかもしれないけど、やれることをやってみよう。

—人間の習慣を変える、この場合後ろを振り返るといのは難しいので、機械的なもの、システムのなのを入れると。

—そうですね、一番大事なのはもちろん教育です。例えばシートベルトやヘルメットの着用は、なぜ必要なのか、着用の意義を理解できれば、シートベルトつけよう、ヘルメットかぶろうという行動につながります。行動変容には教育が必要なんですが、同時に人間は分かっても忘れてしまうし、うっかりする。そこはハードで補わなきゃいけないのかなと思います。だから私は車内の人感センサーとアラームを提案したいですね。

—確かにね。駐車場に子どもを車に乗せたまま親御さんが離れるっていう事例が、この夏場でも報道されてありましたけど、そういうのも含めて防げると思いますよね。

赤ちゃんじゃなくて、大人が車中で待っていてピーピー鳴られても困るっていうなら、例えば温度のセンサー付きで車中温度二十八度以上になったら携帯に連絡が行くようになるとかね。

—そうになると、よりいろんな分野の専門家の方が参加することによって具体的な商品化につながりそうですね。

そうですね。資金の問題でもいろんな人がいると、助成金のことをよく知っている人がいたりしますしね。CDRメンバーは正式には多機関検証委員会って言って、二十人くらいいます。話し合いの中で実際に商品化されるには時間はかかってしまうけれども、すでにあるライフジャケットの普及なんかは資金がなんとかなれば広げられます。

—ライフジャケット！そうですね。

ライフジャケット。その話が出た時も水難事故の検証してて。香川は溜池が多いですもんね。
—一万四千ぐらい県内にはありますね。

そこで溺れる子や川も多いので、ライフジャケットが必要だねって話になりました。でも「水遊びにライフジャケットをー」と言っても高いしすぐサイズアウトする。個人で購入するのは限界があるという話になり、教育委員会でライフジャケットを購入して貸し出すというのを始めました。海の家でも実際ライフジャケットの貸し出ししているところもありますね。

—最近香川県内でもライフジャケットの普及や意識向上の取り組みもあって、実際水難事故の件数も減っているようです。ライフジャケットもCDRの効果アイテムの一つですね。

—今回、チャイルド・デス・レビューというのを初めて聞いた方もいらっしゃるかもしれませんが、子どもの死亡事例を検証することによって再発予防につなげるという考え方がもっと生活に根差していくといいなと思いますし、期待したいですね。

—知らない言葉ですけど、とても貴重な取り組みをされていると今日勉強になりました。

—ありがとうございます。さあ、いつものように鈴木先生、今後の予定を教えてください。

はい。一つはトリプルP前向き子育てプログラムのお知らせです。十月二十八日より毎週土曜日朝九時半から二時間、三木町役場隣の防災センター二階で行います。詳しくはおやサポかがわのホームページをチェックしてみてください。あともう一つ、今日は三年ぶりに開催される第四十四回香川大学医学部祭の紹介をさせていただきます。

—これ、生徒さんに頼まれたんですか？

はい、生徒さんに頼まれました。

—いつ開催ですか？

はい、十月七日、八日に行われます。目玉イベントの紹介ですが、お笑いライブにはレインボー、ザジー、オダウエダ、エルフが登場します。そして医学展では医療講演会、受験生対象医学部説明会、ステージでは軽音部アカペラサークルエスポ、ダンス部、ライブに加えてビンゴ大会、クイズ大会、何でもコンテストなど実行委員による様々な企画が行われます。また、病院ラジオもやるんですけど、初めての企画で。

—病院ラジオ!?

はい、医学部の学生が入院患者さんからのお便りに答えながら様々なトークをお届けします。もちろん各部活の模擬店が出ているのでご飯の心配は不要です。とのことですよ。

—盛りだくさんですね。その病院ラジオはすごく興味がありますね。

医学生自体はラジオを聞いたことがないそうです。相談されたので、サンドイッチマンさんの病院ラジオを紹介したのと、クラブハウスという音声のSNSアプリをラジオとして使うのはいかがでしょうかと提案しました。

—いいですね、私たち、そのラジオに乱入しましょうか(笑)。それで、医学部祭の後はFM90.3で西日本放送かけてもらいますでしょうか。

—AMだっただけ1449でも願っています。

—ラジオの良さを分かってもらえればね、これ幸い。

—医大生、ラジオをよろしく願いますよ。

トリプルP 前向き子育てプログラム
参加者募集
 ～子どもを育てるすべての人のために～

for every parent

親子で幸せになれる
 「子育てのヒント」を学ぼう

*トリプルPとはオーストラリア発祥の
 世界25カ国以上で実施されている
 親向け参加体験型学習プログラムです。
 その効果は多くの研究で科学的に
 証明されています。

トリプルP認定ファシリテーターが学びのお供をします!

10/28～12/16 (土) 9:30-11:30
 5回講座+3回電話相談
 (詳細は裏面をご覧ください)

- 対象 子育て中の保護者 (祖父母の方も歓迎します)
- 講師 小鹿えり (スクールソーシャルワーカー)、鈴木裕美 (小児科医)
- 参加費 5,000円
- 定員 10名
- 場所 三木町防災センター2階 (三木町氷上310番地)
- 託児 あり (無料)

※この講座は、健やかあすなろプロジェクトの一環で開催します

お問合せ
 NPO法人 親の育ちサポートかがわ
 TEL:087-891-2465 (香川大学医学部衛生学 鈴木)
 E-mail:oyasapo_kagawa@yahoo.co.jp

お申し込みは
 こちらから



—ありがとうございます。

ありがとうございます。

—はい、これが初めてのラジオということになるのかな？鈴木先生、今月もありがとうございます。

—はい、今もこれ多分聞いてくれると思うので、頑張ってくださいね。皆さん、楽しみにしています。

—はい、七日と八日の土日です。最新情報はインスタグラム、X (旧ツイッター)、ホームペ
 ジで臨時更新されますのでチェックしてお楽しみください。

—勉強のしすぎです。ラジオでちょっとリフレッシュしてください。十月七日と八日？